

2024年度業務実績報告書

提出日 2025年 1月 17日

1. 職名・氏名 准教授・渡邊 綾

2. 学位 学位 博士、専門分野 応用言語学、授与機関 神戸大学、授与年 2018年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 I (1 単位)1 年生、2024 年度（前期 3 コマ：看護学科、海洋生物資源学科、先端増養殖学科）
② 内容・ねらい ・英語 I：看護学科生向けの看護英語に関する教科書を使用することで、医療英単語や医療現場で必要な英語表現を中心に学習し、医療英単語の習得と英語コミュニケーション能力の向上を目指した。 ・英語 I：海洋生物資源学科生には、基本的な英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング能力を育成する教科書を使用した。主に発信能力を養うため、高校で学んだ英語を使って発信することを目標に、学期末には全員が個人で英語のプレゼンテーションも行い、英語を用いたコミュニケーション能力の向上を目指した。 ・英語 I：先端増養殖学科一同上
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義を行う上で、できるだけ学生が自発的に参加（発言や質問）できるよう、授業に積極的に参加した学生に対する評価が明確になるよう工夫した。Google Classroom を使って、課題や教材をアップし、丁寧な説明を心掛け随時復習できるようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 IIa (1 単位) 1-4 年生、2024 年度（前期 2 コマ、後期 5 コマ）
② 内容・ねらい <前期> ・英語 IIa [Public Speaking]: 基礎的な英語力を上げながら、スピーキングに焦点を当てて、英語スピーチのスキルを身に付けることを目指した。自己紹介から趣味など身近なトピックを基に英語のスピーチの構成を理解し、自分でスピーチを作り実際に発表することで練習した。 ・英語 IIa [Reading]: まとまった英文の読解に焦点をあてて、特に英語で書かれた長文がどのような役割をもつ段落から構成されているかを分析して読むことを行った。また、授業の初めに Timed Reading という多読練習を行うことで、早く正確に読む力を養った。 <後期> ・英語 IIa [World English]: 身近なトピック（食べ物、英語の慣用句、自己紹介、健康等）を取り扱った教科書を基に、基礎的な英語力（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を上げることを目指した。 ・英語 IIa [TOEIC]: TOEIC Listening & Reading Test で 600 点を目指す教科書を用いて、TOEIC テストでよく使用される語彙や文法、英文を練習した。教科書の他にも、リスニングとスピーキング力を上げるための Shadowing の練習や、英文履歴書や英文添え状の例を実際に見ることで、TOEIC のリスニング問題やリーディング問題に対応できるよう工夫した。

・英語 IIa [English Writing]: Narrative, Compare & Contrast, Persuasive という代表的な英作文のジャンルに学期を通して取り組み、お互いにアドバイスをする Peer Feedback を通して、自分や他の学生の作文を客観的に見て修正していく経験を養った。また、Student-led Free Writing という時間を毎回設けて、学生に事前に考えてもらったトピックについて自由に書く時間を重ねることで、学生が英語を書くことへの苦手意識を克服することを目指した。

・英語 IIa [Global Communication]: 基礎的な英語力を固めながら、グローバル人材に求められるコミュニケーションスキルをペアワークやグループワークに取り組むことで養い、英語での発信スキルや対話力を身に付けてもらうことを目指した。

・英語 IIa [Movie]: 時代を代表する様々な映画を取り上げて、それらの映画がヒットした文化的・社会的背景について書かれた英文を読むことでリーディング力をあげ、映画についてのプレゼンテーションをグループで行うことでスピーキング力とリスニング力も養った。英一英の単語リストをユニット毎に作成し、語彙力の向上も目指した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

工夫 1: 講義を行う上で、できるだけ学生が自発的に参加（発言や質問）できるよう、授業に積極的に参加した学生が明確になり評価に繋がるよう工夫した。授業のマネジメントは Google Classroom を使って課題や教材、小テストに関するアナウンスをアップし、丁寧な説明を心掛け随時復習できるようにした。

工夫 2: 教室で学ぶ学生に、可能な限り身近に英語を感じてもらうための工夫を行った。例えば、後期の英語 II a 【Global Communication】の講義では、本学の留学生 3 名（交換留学生、正規の留学生、大学院生）にゲストスピーカーとして来てもらい、出身国の紹介（ネパール、中国、マレーシア）と日本との文化的違いについて英語で発表をしてもらった。その後、少人数のグループに分かれて、ゲストにも入ってもらい、学生に英語で自己紹介と質問タイムを設けて英語で交流した。今後も講義の中で、学内にいながら国際体験をしてもらえるような工夫をしていきたい。その際には、World Café のスタッフとも協力していきたい。

(2)その他の教育活動

内容

【学外】

福井大学医学部医学科 2 年次生の専門科目：「医学英語 1」を非常勤講師として担当した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
<p>1. Watanabe, A. (2024). Managing turn-taking and student response through a microphone gesture in EFL classroom. <i>JALT Journal</i>, 46(2), 137-166. (JALT Journal は全国語学教育学会: The Japan Association for Language Teachers が発行する学術誌。)</p> <p>2. Watanabe, A. (2024). “Born to be a teacher”: An interview of a Japanese English teacher. 「教師は天職」: ある日本人英語教師のインタビュー. 国際教育交流研究, 第 8 号, 15-33.</p>	
	【2 本】
③その他論文（査読なし）	
	【 本】
④ 学会発表等	
<p>Capper, S., Porter, M., Willey, I., & <u>Watanabe, A.</u> (2024). A needs analysis of nursing English in Japan. Poster presented at the 22nd International and Interdisciplinary Conference on Communication, Medicine and Ethics (COMET) 2024 Conference, Brescia, Italy June 26-28.</p>	
	【1 件】
⑤その他の公表実績	
	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
<p>令和 6 年度（2024 年度）独立行政法人日本学術振興会 二国間交流事業 韓国との共同研究(NRF) 課題番号：120248809 研究課題名：「親子間ダイアロジックリーディングを使ったエビデンスに基づく英語教育モデルの開発」 交付額：1,200,000 円</p> <p>備考：令和 7 年度-10 年度 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C) 申請済</p>	
【学内】	
<p>令和 6 年度（2024 年度）個人研究推進支援（ステップアップ研究支援） 研究課題名：「医学部低学年生の英語医療面接能力向上のための医学英語教育プログラムの開発」 交付額：957,000 円</p>	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

第 64 回 福井県高等学校英語弁論大会 審査員 (令和 6 年 10 月 5 日(土) 福井県国際交流会館 多目的ホール)

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

海外派遣部門

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など

- ・海洋生物資源学部生のための留学説明会にて海外研修プログラムの紹介を行った。
(9月27日金 World Caféにて) <https://www.fpu.ac.jp/news/wcevent0927.html>
- ・ハワイ州立大学の語学学校(HELPプログラム)と海外研修プログラム開発を調整中。
- ・学内で設立された「お笑いサークル」の顧問となる。(部長：海洋生物資源学部・先端増養殖科学科1年生 塚原和樹さん)